

Active

我孫子市立湖北小学校

研推だより

2025.6.12 No.4

発行者 菅家

今回のテーマ:指導と評価の一体化について(パート1)

先日、研究主任研修会に行ってきました。「指導と評価の一体化」について学びました。今年度から研究テーマが変わり、「主体的に学習に取り組む態度」について評価で悩んでいる先生方もいるのではないかと思います。(私もそうです…。)研修会で学んできたことを先生方に少しでも共有できればと思います!!目を通していただけたら嬉しいです!

1. 現在の評価の考え方

小学校学習指導要領より

単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価すること

授業の改善と評価の改善を両輪で行うことの必要性が明記されています。

もちろん、湖北小の先生方は単元の計画を立てる際に、「この単元では児童にどんな力をつけさせたいのか」目標を設定してから、その目標を達成させるためにどうするか手立てを考え、教材研究をしていることと思います。そのうえで、学習評価の在り方について確認をしたいと思います。

2. 学習評価の基本的なあり方

- ①児童生徒の**学習改善につながるもの**にしていくこと。
- ②教師の**指導改善につながるもの**にしていくこと。
- ③これまで慣行として行っていたことでも、必要性・妥当性が認められないものは**見直す**こと。

評価は、「PLAN(計画)・DO(指導・実行)・CHECK(評価)・ACTION(改善)」のPDCAサイクルの一部になっています。「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学びの視点」において、重要です。

学習指導要領の目標や内容と評価の観点

育てる資質・能力の3つの柱

知識及び技能

思考力,判断力,表現力等

学びに向かう力,人間性等

観点別学習状況の観点

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

評定

赤字の部分が本校の研究に大きく関わる部分です!

◎観点別学習状況「主体的に学習に取り組む態度」を何で評価するか・・・

- ・ノートやレポート等における記述
- ・授業中の発言
- ・行動観察
- ・自己評価や相互評価等の状況

※挙手の回数など、性格や行動面の傾向の評価にたよらない!

粘り強い取り組みの中で、
自らの学習を調整しようとしているか
→自分の学習状況を把握し、次に生かそうとしているか。や、
行動・考えの変容を見取る。

NITS 独立行政法人教職員支援機構より

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
 興味や関心を高める	 互いの考えを比較する	 思考して問い続ける
 見通しを持つ	 多様な情報を収集する	 知識・技能を習得する
 自分と結び付ける	 思考を表現に置き換える	 知識・技能を活用する
 粘り強く取り組む	 多様な手段で説明する	 自分の思いや考えと結び付ける
 振り返って次へつなげる	 先哲の考え方を手掛かりとする	 知識や技能を概念化する
	 共に考えを創り上げる	 自分の考えを形成する
	 協働して課題解決する	 新たなものを創り上げる

本校の研究テーマ!
子どもに示したら伝わりやすそう!

本校の研究テーマ「主体的に学びに向かう児童の育成」に関わる場所は、赤く囲んだところですが、1つの単元を通して、この3つの学びができるようにすることが重要です!!!

最後に、粘り強い取り組み・・・自らの学習を調整・・・と言われても、どのような方法で指導し、評価をすると効果的なのか悩むところだと思います。次回の「Active」では、効果的な指導と評価の仕方についてお知らせしたいと思います。実際に湖北小でも統一して取り組み、「目指す児童の姿」を明確にしていきたいと考えています!!!